

安全データシート

作成:2001年 1月22日

改訂:2022年 8月23日

1. 製品及び会社情報

整理番号 : KH025-06
製品名 : パデホープ1キロ粒剤
会社名 : クミアイ化学工業株式会社
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26
担当部門 : サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号 : 03-3822-5180
FAX番号 : 03-3823-6830
緊急連絡先 : 同上
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

健康に対する有害性	皮膚腐食性／刺激性	: 区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分2B
	皮膚感作性	: 区分1
	生殖細胞変異原性	: 区分2
	発がん性	: 区分1A
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分1
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	: 区分1
	水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険

危険有害性情報

- ・皮膚刺激
- ・眼刺激
- ・アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性
- ・発がんのおそれ
- ・遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(呼吸器系、免疫系、腎臓)の障害

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。

- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

【応急処置】

- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
- ・皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当てを受けること。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- ・漏出物を回収すること。

【保管】

- ・施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：1-(α , α -ジメチルベンジル)-3-(パラトリル)尿素／一般名：ダイムロン

2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(2-プロポキシエチル)アセトアニリド／一般名：プレチラクロール

成分及び含有量：	ダイムロン	15.0%
	プレチラクロール	3.0%
<その他>	結晶質シリカ(石英)	10.3%
	鋳物質微粉、界面活性剤 等	71.7%

化学式：
 $C_{17}H_{20}N_2O$ ／ダイムロン
 $C_{17}H_{26}ClNO_2$ ／プレチラクロール

官報公示整理番号：	化審法	(1)-548	結晶質シリカ(石英)
官報公示整理番号：	安衛法	4-(13)-64	ダイムロン
		4-(7)-1362	プレチラクロール

CAS No.:	42609-52-9	／ダイムロン
	51218-49-6	／プレチラクロール
	14808-60-7	／結晶質シリカ(石英)

4. 応急措置

- 目に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。
- 皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯で十分に洗い流し、石鹸を使って洗浄する。皮膚粘膜症状には抗炎症剤の投与が有効である。
- 吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気の場所へ移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。汚染された衣類や保護具を取り除く。多量に吸入した場合は医療処置を受ける。
- 飲み込んだ場合：被災者を安全な場所へ移動し、直ちに医療措置を受ける。口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

プレチラクロールの経口摂取の対応として、胃洗浄（重炭酸ナトリウム溶液）、メトヘモグロビンの防止にはアスコルビン酸の投与、又は、1%メチレンブルー溶液の静注が有効である。

5. 火災時の措置

消火方法：初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火器、乾燥砂などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

消火剤：水、強化液、泡、二酸化炭素、ハロゲン化物、消火粉末を放射する消火器

使ってはいけない消火剤：特になし

消火活動上の注意：燃焼又は高温により有毒なガス（塩素化合物等）が生成するおそれがあるので、呼吸保護具を着用する。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

6. 漏出時の措置

作業者に対する注意：屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には保護具（8. ばく露防止措置欄参照）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。置欄参照）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。

環境影響に対する注意：流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

流出物の処理に対する注意：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。真空掃除機で吸い取るなど粉塵が飛散しない方法で取り除く。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：取り扱いは換気のよい場所で行い、粉塵、ガスのこもり易い場所では取り扱わない。漏れ、あふれ、飛散がないようにし、みだりに粉塵、蒸気を発生させない。

火災・爆発の防止：通常の保管方法で問題無し。

保管上の注意：直射日光が当たらない乾燥した冷暗所に保管し、異種物質の混入を避け、火気、熱源から隔離する。

8. ばく露防止措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：日本産業衛生学会及びACGIHのいずれも設定されていない。

設備対策：取り扱いについては、密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。有害物が環境中へ放出されないように、排気装置には除害設備を設ける。

保護具 呼吸用保護具：防塵マスク

保護手袋：保護手袋（ゴム手袋）

保護眼鏡：保護眼鏡（側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）

保護衣：作業着、帽子、保護服

9. 物理・化学的性質

外観等	：	類白色細粒	
臭い	：	データなし	
pH	（10倍希釈液）	：	9.9（参考値）
融点・凝固点	：	データなし	
沸点・初留点及び沸騰範囲	：	データなし	
引火点	：	データなし	
自然発火点	：	データなし	
燃焼性	：	データなし	
爆発下限及び爆発限界上限界／可燃限界	：	データなし	
蒸気圧	：	データなし	
相対ガス密度	：	データなし	
密度及び／又は相対密度	：	0.94（参考値）	
溶解度	：	データなし	
n-オクタノール／水分係数（log値）	：	データなし	
分解温度	：	データなし	

動粘性率 : データなし
粒子特性 : 粒径1.2mm

10. 安定性及び反応性

化学的安定性 : 通常の保管環境下で安定
反応性 : データなし
危険有害反応可能性 : データなし
避けるべき条件 : データなし
混触危険物質 : データなし
危険有害な分解生成物 : データなし

11. 有害性情報

急性毒性(経口) : ラット(♂ ♀) LD₅₀ 5,000 mg/kg 以上
 : マウス(♂ ♀) LD₅₀ 5,000 mg/kg 以上
急性毒性(経皮) : ラット(♂ ♀) LD₅₀ 2,000 mg/kg 以上
急性毒性(吸入:ガス) : 区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気) : データなし
皮膚腐食性/刺激性 : ウサギ プレチラクロールとして、中等度の皮膚刺激性
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギ プレチラクロールとして、軽度の眼刺激性
呼吸器感作性 : データなし
皮膚感作性 : モルモット プレチラクロールとして、感作性あり
生殖細胞変異原性 : 結晶質シリカが区分2に分類されることから区分2とした。
発がん性 : 結晶質シリカが区分1Aに分類されることから区分1Aとした。
生殖毒性 : 結晶質シリカが分類できないため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 結晶質シリカが分類できないため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 結晶質シリカとして、区分1(呼吸器系、免疫系、腎臓)
誤えん有害性 : データなし

12. 環境影響情報

生態毒性 魚 : (コイ)LC₅₀ 42 mg/l (96時間)
甲殻類 : (オオミジンコ)EC₅₀ 109 mg/l (48時間)
藻類 : EC₅₀ 0.035 mg/l (72時間)
残留性/分解性 : データなし
生体蓄積性 : データなし
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : データなし
その他 : 除草剤であり、植物に影響がある。
水産動植物に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意してしようする。

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせ使いきる。容器の洗浄水等は河川に流さない。
都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 : クラス9(有害性物質・容器等級Ⅲ)

国連番号 : 3077(環境有害物質、個体)
国内規制
海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 : 航空法の規定に従う。
陸上規制情報 : 道路法の規定に従う。

15. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第18913号
消防法 : 非該当
労働安全衛生法 : 第18条の2(通知対象物質):結晶質シリカ(石英)(政令番号165-2)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 第一種指定物質 100号 プレチラクロール
毒物劇物取締法 : 非該当

16. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献: 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針
2019年6月 社団法人 日本化学工業協会
3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会
4) GHS文書 改訂第6版(2015年)

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大阪(年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話	072-726-9923
つくば(毎日9時~21時)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。